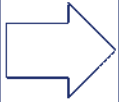


本事業への理解

- 1.町唯一の中学校であること。
- 2.本敷地が町の中心部にあり、周辺部に町の主要な施設が配置されていること。
- 3.小学校が北小・南小の2校あり、将来小中一貫校として教育施設をまとめ質的な向上も視野に入れることが可能な敷地面積があること。
- 4.近年地震の活動期にあり、防災拠点としての機能が校舎に求められていること。
- 5.学校教育の場のみならず、生涯学習も含め様々な期待が本事業に期待されていること。
- 6.現校舎が耐震性能が、極めて低く早急な改築が求められていること。
- 7.公共建築物として、ムダなく、十分コストの検討がされ、かつ長寿命で質の高いものが求められていること。

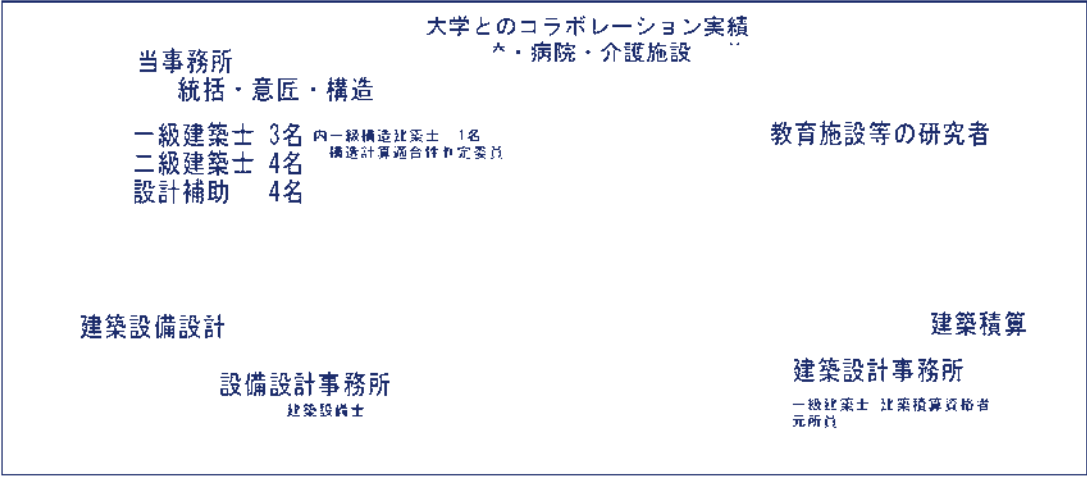


業務への取組み体制

- 本業務への取組みとして、町関係者の本教育施設への要望等に対する提案を適格に行うことはもちろん、大勢の関係者との協議・ワークショップをフットワーク良く行う必要があると考えています。
- 本事業は特に短い設計期間で密度の高い設計が要求されると考えていますので、当事務所で行っているWEBサイトを利用しての協議を提案したいと考えています。
- 提案事項については、常に性能とコストが重要と考えます。基本設計時においても、積算担当者との協議を常時持ちコストスタデーを行える体制とします。
- 町唯一の中学校であることから、将来の様々な変革に対しても柔軟に対応出来る賢い建物が要求されているとの考えから、設計に際しては、学校建築の研究者とのコラボレーション・意見交換等を積極的に行っていきたいと考えています。
- つまりは、設計時は常にそのトータルコストを把握する作業を行うことを基本とします。

設計チームの特徴

- 当事務所の仕事への取組みかたは、チームプレーとコラボレーションを基本としております。本業務に当たってもこの方法を最大限生かした結果を出したいと考えております。



- 実績に掲載した某高校は、区画整理の都合と既存校舎を使用しながらの建替え工事で、約12年間を要しました。様々な問題をクリアーしながらの竣功でありました。当設計チームは、設計としては難易度の高い設計を経験しております。
- 大規模教育施設・医療介護施設（複合施設）10000m～20000mの設計監理を計画研究者との コラボレーションで、またパイロットモデル事業として数件実績のある設計チームです。

特に重視する設計上の配慮事項

意匠	構造	設備
■建築関係法令遵守に関しては、その事前協議・報告を密に行う。 ■仕様決定に際しては必ずイニシャルコスト、ライフサイクルコスト・性能の比較検討を行う。 ■特に必要とされない装飾は原則的には行わないこととする。 ■メーカー保証の認定品については、その仕様を詳細に確認を行い採用する。実績の状況も現場確認する。 ■構造・設備との整合性については十分その確認を行う。 ■近年、学校等の建築に關わる事故 ガラスetc. については情報収集をさらにに行い、設計検討する。	■建築関係法令遵守に関しては、その事前協議・報告を密に行う。 ■仕様決定に際しては必ずイニシャルコスト、ライフサイクルコスト・性能の比較検討を行う。 ■メーカー保証の認定品については、その仕様を詳細に確認を行い採用する。実績の状況も現場確認する。 ■意匠・設備との整合性については十分その確認を行う。 ■構造断面の決定にさいしては、耐力のみならず、その品質の担保出来る 施工性等. ことを考え決定する。 ■構造システムは、壁・耐震壁等 に頼らない手法とする。将来の利用変更にも柔軟に対応出来る建物を目指す。	■建築関係法令遵守に関しては、その事前協議・報告を密に行う。 ■仕様決定に際しては必ずイニシャルコスト、ライフサイクルコスト・性能の比較検討を行う。 ■メーカー保証の認定品については、その仕様を詳細に確認を行い採用する。実績の状況も現場確認する。 ■意匠・構造との整合性については十分その確認を行う。 ■設備機器のメンテナンス体制について訂査の上、最終決定することを原則とする。

その他業務上の配慮事項

- 設計業務にての重要事項として、建物の性能とコストがあります。コストについてはイニシャルコストとライフサイクルコストがありますが、両者とも重要な要素です。従って、コストコントロールについては以下の方法で進めたいと考えております。仕様決定の際は、イニシャル・ライフサイクルコストの比較検討を十分行なって進めることを基本とします。

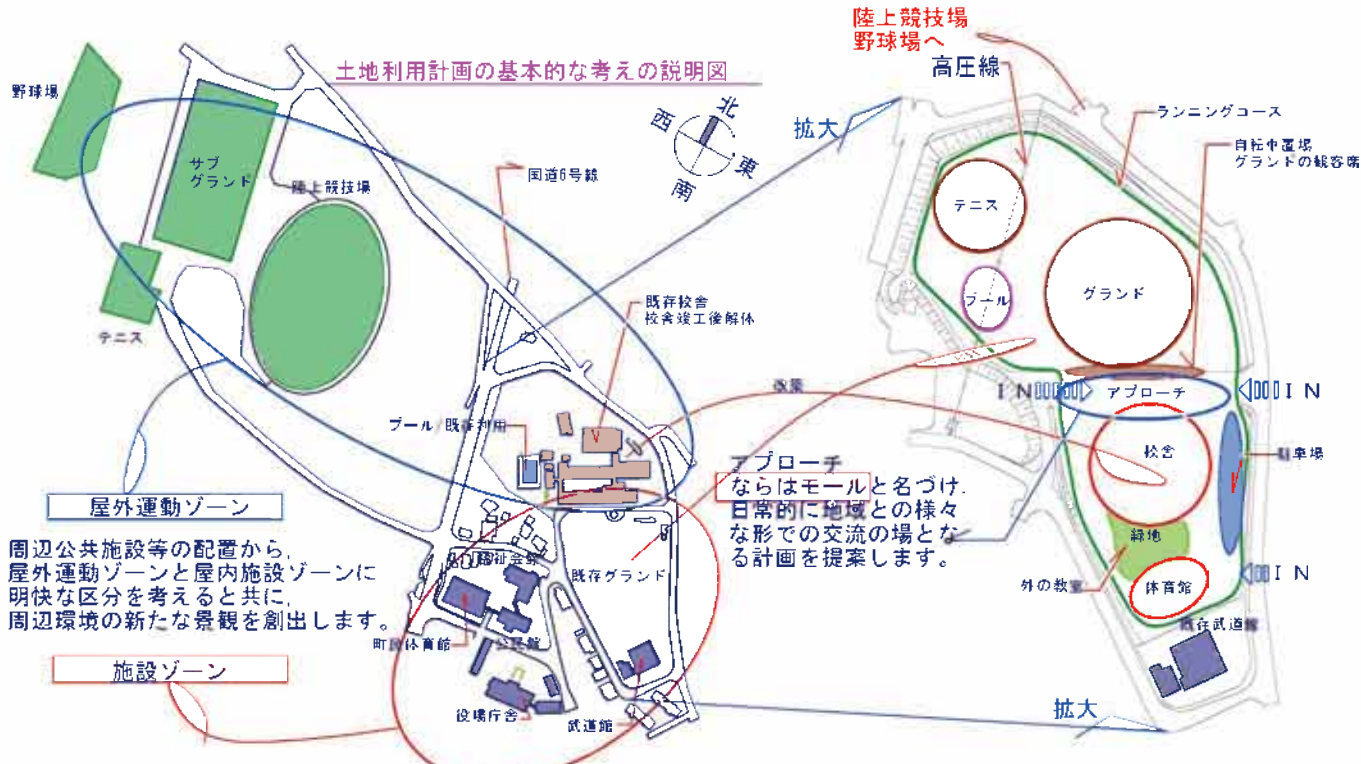
実施設計

性能とコスト確認1 性能とコスト確認2 性能とコスト確認3
 以上、設計の中間で性能とコストの確認を3回行うこととします。

- コストと同時に設計内容について、その都度プレゼンテーションを行うこととします。WEBサイトを利用しても同時に行います。

周辺施設に配慮した土地利用計画

- 本中学校の敷地は、町の中心部にあり、周辺には陸上競技場等の運動施設または、役場庁舎をはじめコミュニティセンター・町民体育館・公民館・福祉会館・武道館等が整備されています。従って、中学校校舎改築にあたっては、それら周辺の施設と有機的なつながりを持たせ、あらゆる面で、日常的に地域と密着した学校を目指します。ひいては、多々問題になっている学校の安全の確保にもつながることと考えています。また、町中心部の景観の向上にも寄与するものと考えます。
- 仮設校舎を使用せずの改築を考え、新設校舎を現在のグランドへの配置とします。
- 周辺の公共施設からの動線等から、周辺の住宅等との関係に配慮するとの考えからも、良好な配置であると考えます。
- 特に、学校と地域との接点となるアプローチ廻りについての雰囲気づくりには様々な提案をしたいと考えています。
- 地域交流・生涯学習・学校開放に配慮した配置計画を提案します。



周辺の環境に配慮した施設・外構計画

- 周辺には戸建住宅が多い。従って、校舎の高さは出来るだけ抑えかつ、全体を分節し小さいマス、集合体の外観を基本とし、周辺景観との調和に配慮します。
- 体育館については、機能の面でどうしても大きな壁・マスになりますので、北側境界から出来るだけ離しての配置、周辺・校舎との間等を積極的な緑化をすることで周辺環境に調和させることに努めます。

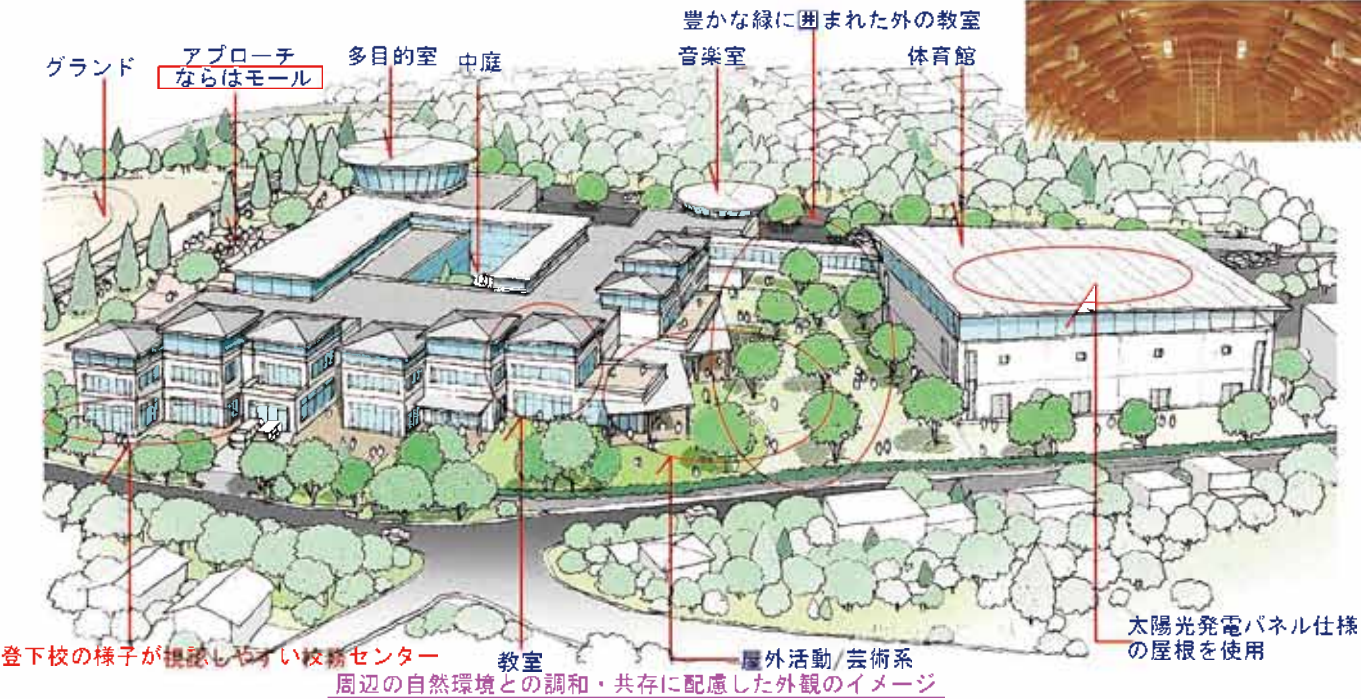
地産地消に努める/地場産の木造

- 右図写真(体育館の内部イメージ) 参照/体育館の屋根を受ける梁(トラス)について地産の木造を利用する。/柱壁等は耐力またはコスト等を考え、鉄筋コンクリート構造として検討をします。
- その他、教室・多目的室・ラーニングセンター・音楽室等の屋根を受ける梁は地産の木材の利用を積極的に検討し採用したいと考えております。(後頁参照)

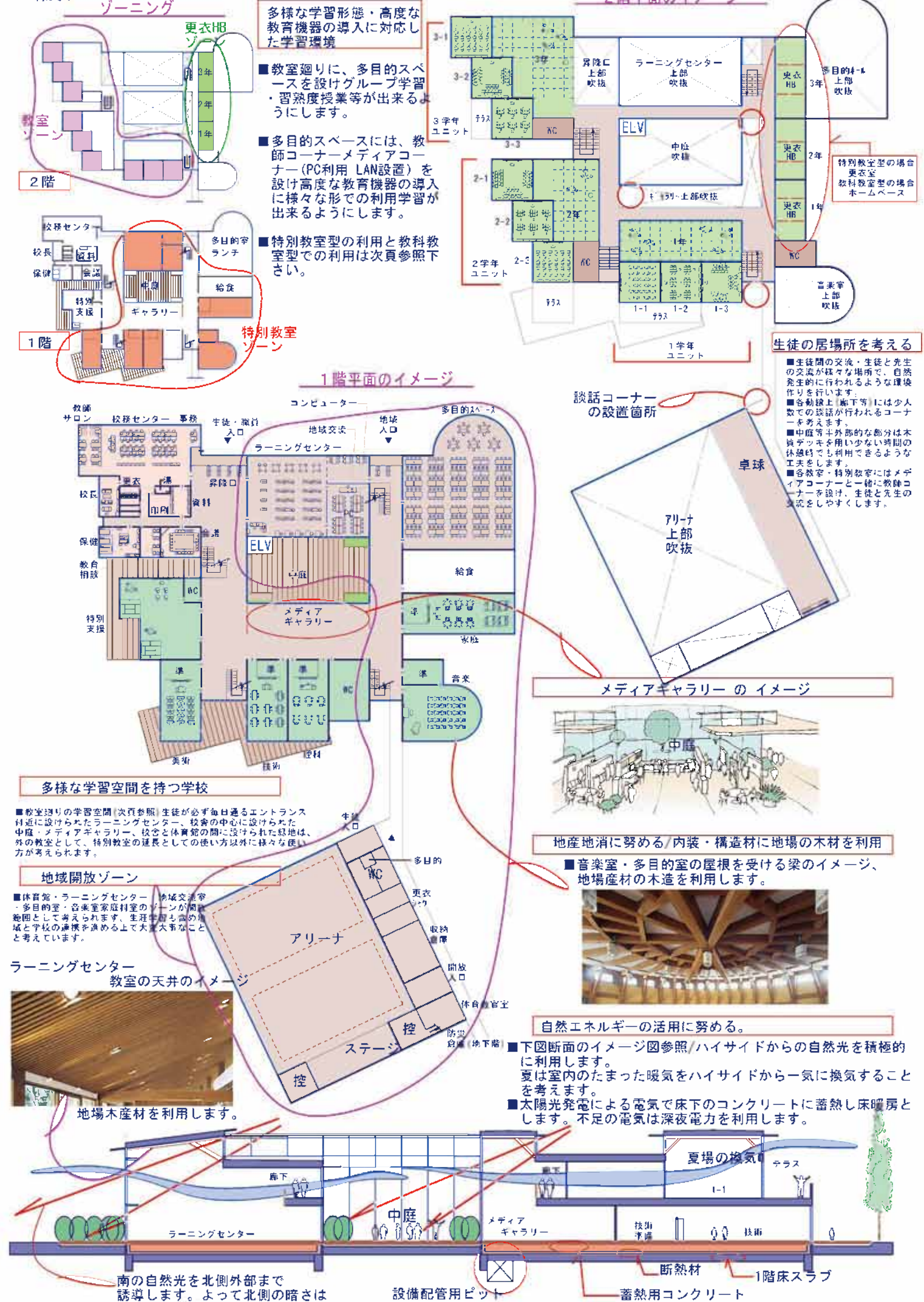
太陽エネルギーの活用

- 下図/体育館の屋根をおおよそ南下がりの形態とし、全面を太陽光発電仕様の屋根として考えます。
- 従って、体育館屋根は片流れのシンプルな屋根とします。
- 体育館床下に太陽光でつくられた暖気を循環させ簡易な暖房を行います。体育館の床の暖房は、利用者のけが等を減少させます。体育館に暖房することで、利用率は飛躍的にアップします。

体育館の内部のイメージ



登下校の様子が視認しやすい校務センター 教室 屋外活動/芸術系
 周辺の自然環境との調和・共存に配慮した外観のイメージ



様式 9-5 可動間仕切りレール 特別教室型と教科教室型の利用が出来る教室計画

